

様式第3号

令和7年度第3回一関市立巖美小中学校運営支援協議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第3回一関市立巖美小中学校運営支援協議会
- 2 開催日時 令和8年2月27日（金）午後1時00分から午後2時05分まで
- 3 開催場所 一関市立巖美中学校 視聴覚室
- 4 出席者
委員 佐藤武生委員（委員長）、佐藤奈保子委員（副委員長）
佐々木貴浩委員（副委員長）
槻山真希子委員、遠藤寛文委員、小原昭彦委員、阿部美代子委員
五十嵐正一委員、鈴木有希委員（小学校長）、青沼徹委員（中学校長）、
赤塚知秋委員（事務局）、鈴木智行委員（副事務局）

※欠席者 千條幸男委員、小岩恭一委員、徳永規幸委員

5 議題

- (1) 令和7年度学校経営について
- (2) 令和8年度学校経営について
- (3) 学校の諸課題について

6 公開、非公開の別 議題(1)～(2)公開、議題(3)非公開

非公開の理由 児童及び生徒に関わる個人情報が含まれているため。

7 傍聴人 0人

8 議事内容

(1)・(2) 令和7年度学校経営及び令和8年度学校経営について

○巖美小 2学期学びフェスト反省及び令和8年度グランドデザインについて

○巖美中 学校評価アンケート結果及び令和8年度の方向性について

委員 他の地域では学校支援ボランティアという仕組みがあり、地域の人が学校支援をしているという。巖美地区はどうか。

中校長 これまで、ミシン操作の見守り・調理実習の見守り・習字指導・俳句指導・プール学習の見守り等が他校ではあった。

小校長 児童数減により、何とか出来ているがお手伝いいただけるのであればありがたい。人材集めや窓口となる「地域コーディネーター」がいると活動がスムーズにいくが、巖美にはいない。地域コーディネーターの確保が課題である。

中副校長 今年度の環境整備作業は、昨年度の学校運営支援協議会での話題が

きっかけとなり地域の方々にお手伝いいただいた。

委員 声を掛けられれば手伝いたい人がたくさんいる。

委員 得意分野の力を借りることはいいことである。

委員 メディアについて、メディアが一概に悪いとは言えないため、関わり方が大切であり、それを教えていく必要がある。

委員 子どもの字が上手ではないことは、よく話題に上がる。

委員 普段から様々な教科で「上手だね」と声を掛けていくことで気をつけるようになっていくのではないかな。

小校長 筆圧が弱い、靴紐が結べない等、手先の不器用さや体の調整が難しい子が多くなってきた。

中校長 今の社会が汚い字を書くことに寛容。多様性の社会。

・小学校、中学校の令和7年度学校経営及び令和8年度の方向性について理解いただいた。

(3) 学校の諸課題について

○厳美小 次年度以降の世帯数減少に伴うPTA組織の見直しを図った。次年度は、児童会組織の改編により花壇管理ができなくなるため、花植えの規模縮小を予定している。

○厳美中 今年度のふるさと隊の活動がクマ出没により制限され、1年生で未経験者も出た。中学生は地域に出て活動することを大切に考えているが、今後難しいことも予想される。

委員 市の「環境整備予算」を活用し、熊の被害防止対策として学校周辺の藪の伐採を検討してみてもどうか。林政推進課に相談。

中副校長 合同点検の結果、学校周辺の道路の白線が引き直されたり厳美溪周辺にグリーンベルトが引かれたりした。

委員 道路の白線やグリーンベルトにより通学路の安全が確保され大変良い。セブンイレブンの交差点は信号がつくとさらによいのだが。

中副校長 警察によると、設置の基準（一定の時間内の交通量）もあり、申請してもすぐに設置にはならないとのこと。

中校長 令和9年度をめどに、小中合同運動会の実施を検討している。子ども達の活力を高め、限られた人員を有効活用するため。今後も小中連携を進めていく。

・小学校、中学校の学校の諸課題について理解いただけた。